



2021 年 2 月吉日
NPO 法人 ASrid

**厚生労働省が障害福祉サービス費の報酬改定で「日中活動支援」を新設
-中間機関としての一つの貢献についての報告-**

2021 年 2 月 4 日、厚生労働省のホームページで、令和 3 年度障害福祉サービス等報酬改定の概要が掲示されました。

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_16573.html

資料 1 <https://www.mhlw.go.jp/content/12200000/000734439.pdf>

この報酬改定で「日中活動支援」が新設されました。

(資料 1 11 ページ「医療型短期入所の受入体制強化」「4 日中活動支援の評価」)

この新設に向けては、小児難病領域のステイクホルダーである医療型短期入所施設の関係者が数年にわたって様々な活動をされてきました。現場の声なくしてはなし得なかった快挙です。関係者の皆様に改めてお祝い申し上げます。

NPO 法人 ASrid は、上述関係者からの依頼を受け、2019 年春から 2020 年春にかけて、医療型短期入所施設に入所した医療的ケア児とその家族にとっての日中活動「遊び・学び」について調査研究を実施しました。研究は国立成育医療研究センターとの共同研究として実施しました。

日中活動についての先行研究は極めて少なく、当事者の QOL や施設で行われる遊び・学びをどう評価すれば良いのか、医療的ケア児に研究参加してもらうときの倫理的な側面をどう考えれば良いのかなど、今までにない多くのチャレンジがありました。

それでも、成育医療研究センターもみじの家 内多勝康さんはじめとした関係者と協議する中で調査項目や調査手続きを決め、国内 4 施設にて当事者へのアンケートと当事者・施設職員・専門家へのインタビューを実施することができました。

その結果、アンケートからは施設入所後には親が評価した当事者の QOL が上昇すること、施設での遊び・学び活動の充実が親が評価した当事者の QOL へ寄与することが明らかになりました。また、インタビューからは、数字では出てこない部分で、施設での医療的ケア児に対する遊び・学び活動の重要性や意義、活動を実施する上での工夫・悩みや葛藤、現場を改善するアイデアなどたくさんの生の声をいただきました。ひとつひとつが今まであがってきづらかった貴重な声だと思います。

今回の調査を実施して初めてわかったことも多く、調査設計に工夫の余地もありますが、まずは基本的な数字や、貴重な当事者・関係者の声を出すことができたと考えております。



NPO 法人 ASrid は中間機関であり、直接関係者の方々のニーズに応えることができた場合でも、その後の直接的な関係者の尽力なくしてゴールへの到達はありません。

今回の報告書の中で、今後必要なアクションだと想定される項目をいくつか提案し、そのひとつに「加算・助成に向けた提言」を記載いたしました。また、想定される主導組織（直接関係者）は医療機関ならびに医療型短期入所施設と記載しました。これは、私達が次にバトンを託したいと考えた方々です。

その後、本調査研究に関わってくださった関係者の皆様、意見交換に応じてくださった厚生労働省の方々などが、さらに本成果を活かしてくださいました。

私達がバトンを受け、バトンを渡し、直接関係者の方が望むゴールを決める。これこそが、私達が理想とする中間機関の一つの形だと考えております。

医療的ケアの必要な子が短期入所施設でも力いっぱい遊べるよう、そして保護者が安心して医療的ケアの必要な子どもを施設に預けられるよう、今回の報酬改定による「日中活動支援」新設が一助となることを期待します。

私どもも、本調査研究成果を活かした活動を来年度以降も続けてまいります。微力ではございますが、中間機関としての活動が、引き続き「医療型短期入所施設の持続的運営に向けた社会保障の充実」「医療型短期入所施設における「遊び・学び」の要素の重要性の周知」につなげるべく尽力いたします。

最後に、本調査研究の主旨に賛同いただき、非営利活動事業にご支援を賜りました JCR ファーマ株式会社に厚く御礼申し上げます。

参考資料：調査研究結果の報告書 <http://urx.red/bcdV>

（研究成果は論文にまとめる予定です）